

# 強者の戦略

こんにちは、日本史の岡上です。長い長い（今年は気温の面でも…）夏がようやく終わり、少しずつ秋の気配が感じられるようになってきましたね。一方で受験の足音も近づいてきたわけで、私の担当する生徒達もようやく気合いが満ちてきた（おしりに火が付いた！？）のが感じ取れます。特に授業中のこちらを見る「眼」に力がこもってきたことが嬉しく、受験までの僅かな時間に有意義なものを提供できるよう努めていかねばと思っています。

さて、第7回となる今回は 2010 年の東大日本史の第3問を取り上げてお話をしていきたいと思います。さあ、まずは1週間、しっかり問題を考え、自分なりの解答を作成してみてください。

## 【2010年度 東京大学 文科前期 第3問】

次の(1)～(4)の文章は、17世紀前半の出羽国の院内銀山について記したものである。これらを読んで、下記の設問A・Bに答えなさい。

- (1) 1607年に開かれ、秋田藩の直轄となった院内銀山では、開山して数年で、城下町久保田（現在の秋田市）に並ぶ約1万人の人口をもつ鉾山町が山中に形成された。
- (2) 鉾山町の住民の出身地をみると、藩に運上を納めて鉾山経営を請け負った山師は、大坂・京都を含む畿内、北陸、中国地方の割合が高く、精錬を行う職人は、石見国など中国地方の出身者が多かった。一方、鉾石の運搬などの単純労働に従事した者は、秋田領内とその近国の割合が高かった。
- (3) 鉾山町では、藩が領内の相場より高い価格で独占的に年貢米を販売しており、それによる藩の収入は、山師などが納める運上の額を上回っていた。
- (4) 当時、藩が上方で年貢米を売り払うためには、輸送に水路と陸路を併用したので、積替えの手間がかかり、費用もかさんだ。

### 設 問

- A 鉾山町の住民のうち、山師と精錬を行う職人の出身地にそれぞれ上記のような特徴がみられたのはなぜか。3行以内で述べなさい。
- B 秋田藩にとって、鉾山町のような人口の多い都市を領内にもつことにはどのような利点があったか。2行以内で述べなさい。